特集「流通」の発刊によせて

鎌 田 稔

2004年上期はジーコジャパンがアジアカップ優勝、アテネオリンピックでは16個の金メダルをとるなど、スポーツが目立つ半年であった。消費もそのスポーツや夏の記録的な猛暑の影響もあり、薄型テレビ、クーラを中心として近年になく好調に推移した。しかし消費全般で見ると市場の飽和状態から、GMS*¹では伸び悩むなど勝ち組、負け組の区分けがより鮮明となった。厳しい顧客の奪い合いから各企業はより消費者の動向に着目した経営戦略が求められ、企業のビジネスを支えるITもコスト面のみならずビジネス視点での価値創出の仕組み作りがより重要になって来ている。

消費飽和社会のなかで消費者はより、「安全であること」「安心であること」が満たされる商品に付加価値を求めるとともに、鮮度が高い商品を求めるようになった。

身近にある携帯電話、デジタルカメラに代表されるように、商品サイクルは短くなり、小売業はいかに店頭在庫を削減できるかが、収益確保の重要な鍵となってきている。日本でのSCMの実施率はまだ10数パーセントであるが、イオングループがメーカーとの直納を強力に推進しているように、製販の情報共有をしなければ今後市場に残れない状況になってきている。

日本ユニシスは90年初頭より、流通業のオープンアーキテクチャをベースとして、EA*²アーキテクチャ実現の支援をしている。EAのトップ層であるBA*³は企業が目指すべき将来像のデザインであり日本ユニシスもBIO（ビジネスイノベーションオフィス）を中心に顧客支援を強力に推進している。本特集号では、①消費者の安全志向の高まりとトレーサビリティの関連から企業ブランドの確立への考察と②国際競争力が無くなりつつあるファッションビジネス業界でのITを通じた変革の可能性についての論文を掲載している。

2004年時点で、米国ではすでに汎用機が占める割合は8%となっており、20%弱を占める日本も数年以内に同様な比率になることは確実である。所謂ダウンサイジングであるが、再構築にあたって、開発の要点としてデータ中心アプローチを行い着実に稼働した開発事例報告と、主に食品スーパーに対してベストプラクティスなソリューションであるOpencentral*⁴の導入プロセスの論文を掲載した。

サービス業である流通業はよく労働集約産業と言われる。人件費の高騰は直接企業経営に影響を及ぼすものである。企業はその重要性を理解していても、要員の最適配置までに至らないのが実情である。本特集号の論文の一つにLSP*⁵適用がある。当社ではOpenPssという商品名で販売しているが、同様なカテゴリでは国内唯一のソリューションとあってよい。本ソリューションで最適人員計画を立てることにより、人件費が数ポイント下がる事例も出てきており、是非参考にしていただきたい論文である。

ウォルマートとKマートの事例を出すまでもなく、情報活用は企業成長の大きな鍵を握っている。企業の活動の中心は現場であり、顧客満足度を向上させる上で直接お客様に接する担

当者に正しい情報を与え、PDCA でビジネスを動かしていくことは企業の成長の上で欠かせなくなっている。20 世紀最高の経営者と評される元 GE のジャックウェルチは言っている。「ビジネスは簡単だ。部屋に 6 人いて、誰もが同じ情報をもっているとすれば、まず 6 人全てがほぼ同じ結論にたどりつく。問題は持っている情報が違うことである。ビジネスが複雑になるのは必要な情報が得られないからだ。」と。

本特集号では当社の DHW 構築・検索ソリューションである MartSolution をベースとした論文を 2 編掲載している。情報活用は重要であるが、過大な投資コストであれば効果が出る前に企業の体力を奪うことになる。本ソリューションは低価格、高パフォーマンスの商品であり、またカスタマイズが容易なプロダクトである。是非その設計思想、適用事例を参考にさせていただきたい。

流通業では、当然のことながら在庫管理が重要であり、セブンイレブンやヤマト運輸に代表されるように、日本の物流業は世界一きめ細かい管理をしている。物流は顧客に届くまで時間単位での管理が必要となっているといえる。その為には物流と商流を分離し、商品の流れはその業種や種類によって顧客の要求に応じた管理が必要であり、本特集号では販売物流構築のアーキテクチャ論として紹介している。

本特集号のオープンシステムの事例とシステム実現手段についての紹介が、読者のシステム構築時の一助になれば幸いである。

(日本ユニシス・ソリューション株式会社 執行役員)

-
- * 1 GMS (General Merchandising Store)
イトーヨーカ堂、ジャスコに代表される、衣料、食品、雑貨を扱う量販チェーンストア
 - * 2 EA (Enterprise Architecture)
企業のビジネスを支える IT を BA (BusinessArchitecture), DA (DataArchitecture), AA (ApplicationArchitecture), TA (TechnologyArchitecture) の四つの層に分解各々の最適化を目指す考え方
 - * 3 BA (BusinessArchitecture)
 - * 4 OpenCentral
マイクロソフト社の COM 技術をベースにしたプラットフォーム上で動く、チェーンストア向け受発注と販売管理システム。日本ユニシス開発商品。
 - * 5 LSP (Labor Schedule Program)
作業員に対して複数の作業を最適に割り振ること。一番単純なものは月間勤務表作成。